



電話機テンプレート

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) は、多数の電話機を一括して追加、更新、または削除する高速で効率的な方法を管理者に提供します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページを通じて個々に更新を行う必要はありません。BAT を使用して次のタイプの電話機を処理することができます。

- Cisco Unified IP Phone (全モデル)
- CTI ポート
- H.323 クライアント

次のトピックでは、BAT を使用して電話機テンプレートと他の IP テレフォニー デバイスに関する作業を行う方法について説明します。

- [電話機の追加 \(P.3-2\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートの使用方法 \(P.3-3\)](#)

電話機の追加

BAT を使用して、電話機と他の IP テレフォニー デバイスを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する場合は、各電話機に複数の回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加することができます。CTI ポートと H.323 クライアントを追加することもできます。

電話機用の CSV データ ファイルを作成する方法としては、次の 2 つのオプションがあります。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用し、データを CSV 形式にエクスポートする。
- テキスト エディタを使用して、CSV 形式のテキスト ファイルを作成する (経験豊富なユーザー向け)。

電話機と IP テレフォニー デバイスを一括して追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [電話テンプレート] の順に選択します。

[電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウが表示されます。電話機テンプレートの設定の詳細については、[P.3-3](#) の「[BAT 電話機テンプレートの使用方法](#)」を参照してください。

ステップ 2 BAT スプレッドシートを使用して、電話機テンプレートを挿入するための CSV データ ファイルを作成する手順は、[P.3-35](#) の「[BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。

テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成する場合

a. [一括管理] > [電話] > [電話ファイル形式] > [ファイル形式の作成] の順に選択します。

[電話ファイル形式の検索と一覧表示 (Find and List Phone File Formats)] ウィンドウが表示されます。CSV データ ファイル用のファイル形式設定の詳細については、[P.4-2](#) の「[電話機のファイル形式の検索](#)」を参照してください。

b. テキスト エディタを使用して、使用するファイル形式に従った電話機用の CSV データ ファイルを作成します。テキストベースの CSV ファイル作成の詳細については、[P.A-2](#) の「[電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」を参照してください。

c. [一括管理] > [電話] > [電話ファイル形式] > [ファイル形式の追加] の順に選択します。

[ファイル形式の追加 (Add File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。ファイル形式の関連付けの詳細については、[P.4-7](#) の「[ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け](#)」を参照してください。

ステップ 3 [一括管理] > [電話] > [電話の確認] の順に選択します。

[電話の確認 (Validate Phones)] ウィンドウが表示されます。電話機レコードの確認の詳細については、[第 5 章](#)「[電話機レコードの確認](#)」を参照してください。

ステップ 4 [一括管理] > [電話] > [電話の挿入] の順に選択します。

[電話の挿入 (Insert Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。Cisco Unified Communications Manager データベースへの電話機レコードの挿入の詳細については、[P.6-2](#) の「[電話機の Cisco Unified Communications Manager への挿入](#)」を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.3-51](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT 電話機テンプレートの使用方法

BAT 電話機テンプレートを使用して、一連の新しい電話機を追加するために共通の電話機アトリビュートを定義します。テンプレートの作成前に、電話機設定値（たとえば、デバイスプール、ロケーション、コーリングサーチスペース、ボタンテンプレート、ソフトキーテンプレート）が、Cisco Unified Communications Manager の管理ページに設定されていることを確認してください。BAT で新しい設定値を作成することはできません。

次のトピックを使用して、BAT 電話機テンプレートに関する作業を行います。

- [BAT 電話機テンプレートの検索 \(P.3-3\)](#)
- [新しい BAT 電話機テンプレートの作成 \(P.3-4\)](#)
- [BAT テンプレートにおける回線の追加または更新 \(P.3-5\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートのコピー \(P.3-9\)](#)
- [テンプレートの削除 \(P.3-10\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明 \(P.3-11\)](#)

BAT 電話機テンプレートの検索

複数の電話機テンプレートに対応できるように、Cisco Unified Communications Manager では、固有の検索条件に基づいて特定の電話機テンプレートを検出できます。テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションの作業中、検索/一覧表示の検索プリファレンスはクライアントマシンのクッキーに格納されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを再度開いた場合、検索を変更するまで Cisco Unified Communications Manager 検索プリファレンスが維持されます。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [電話] > [電話テンプレート] の順に選択します。

[電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウンリストボックスを使用して、テンプレートを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: 電話テンプレート、検索条件:] ドロップダウンリストボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [デバイス名]
- [説明]
- [電話番号]
- [コーリングサーチスペース]
- [デバイスプール]
- [デバイスタイプ]
- [コールピックアップグループ]
- [LSC ステータス]
- [認証文字列]

- [デバイスプロトコル]
- [セキュリティプロファイル]

2番目の [検索対象: 電話テンプレート、検索条件:] ドロップダウンリストボックスで、次のいずれかの条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、**[検索]** をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての電話機テンプレートを検索するには、検索テキストを入力せずに **[検索]** をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが表示されます。

ステップ4 レコードのリストから、検索条件に一致するデバイス名をクリックします。

選択した電話機テンプレートがウィンドウに表示されます。

その他の情報

詳細については、[P.3-51](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

新しい BAT 電話機テンプレートの作成

電話機テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。電話機テンプレートを作成したら、回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加できます。電話機テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ1 **[一括管理]** > **[電話]** > **[電話テンプレート]** の順に選択します。

[電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 **[新規追加]** をクリックします。[新規電話テンプレートを追加] ウィンドウが表示されます。

ステップ3 [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストボックスで、テンプレートを作成する対象の電話機のモデルを選択します。**[次へ]** をクリックします。

- ステップ 4** [デバイスプロトコルの選択] ドロップダウンリスト ボックスで、デバイス プロトコルを選択します。[次へ] をクリックします。
- [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウに、選択したデバイス タイプに対応するフィールドとデフォルトのエントリが表示されます。
- ステップ 5** [テンプレート名 (Template Name)] フィールドに、テンプレートの名前を入力します。名前には、50 文字以内の英数字を指定することができます。例 : Sales_7960。
- ステップ 6** [デバイス情報 (Device Information)] 領域に、このバッチに共通する電話機設定値を入力します。フィールドの説明については、表 3-1 を参照してください。電話機モデルとデバイス タイプによっては、表に記載されているアトリビュートすべてを備えていないものがあります。
- ステップ 7** この BAT 電話機テンプレートの設定値をすべて入力した後、[保存] をクリックします。
- ステップ 8** トランザクションが完了したことがステータスに示されたら、回線アトリビュートを追加することができます。

その他の情報

詳細については、P.3-51 の「関連項目」を参照してください。

BAT テンプレートにおける回線の追加または更新

次の手順を実行すると、BAT テンプレートに複数の回線を追加したり、既存の回線を更新したりすることができます。この BAT テンプレートで使用しているボタン テンプレートにより、追加または更新できる回線の数が決まります。複数の回線を持つマスター電話機テンプレートを作成することができます。さらに、マスターテンプレートを使用して、1 回線またはマスターテンプレートの回線数以下の複数回線を持つ電話機を追加することができます。詳細については、P.1-5 の「マスター電話機テンプレート」を参照してください。

手順

- ステップ 1** P.3-3 の「BAT 電話機テンプレートの検索」の手順に従って、回線を追加する電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[回線 [1] - 新規 DN を追加] をクリックします。

[回線テンプレートの設定 (Line Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注) BAT テンプレート用に表示される最大回線数は、BAT 電話機テンプレートの作成時に選択したモデルとボタン テンプレートによって決まります。

- ステップ 3** 表 3-2 で説明されている回線設定値に対して、適切な値を入力または選択します。この回線用に選択する設定値は、このバッチ内のすべての電話機またはユーザ デバイス プロファイルで使用されます。すべてのフィールドは、オプションです。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

BAT によって、回線が電話機テンプレート設定に追加されます。

ステップ 5 その他の回線の設定値を追加するには、[ステップ 2](#)～[ステップ 4](#) を繰り返します。



(注) [回線テンプレートの設定 (Line Template Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク] ドロップダウンリストボックスから [検索 / リストに戻る] を選択すると、[回線テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Line Templates)] ウィンドウが表示されます。既存の回線テンプレートを検索するには、適切な検索条件を入力して、[検索] をクリックします。新しい回線テンプレートを追加するには、[回線テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Line Templates)] ウィンドウで、[新規追加] をクリックします。

回線テンプレートには、英数字を使用することをお勧めします。番号を指定すると、実際の電話番号と競合する可能性があります。英数字を使用することで、コール ピックアップ グループ番号やコール パーク番号などの情報との競合も回避できます。



(注) 一部の Cisco Unified IP Phone モデルでは、Cisco Unified IP Phone サービスと短縮ダイヤルをテンプレートに追加することができます。詳細については、[P.3-6](#) の「BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新」および [P.3-7](#) の「BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新」を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.3-51](#) の「関連項目」を参照してください。

BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新

各種の Cisco Unified IP Phone サービスが、この機能を備える Cisco Unified IP Phone モデルに登録できます。



(注) 固有のサービス パラメータを持つ IP サービスではなく共通のサービス パラメータを持つ IP サービスに、ユーザまたは電話機をまとめて登録できます。これは、電話テンプレートによって登録されているサービスでのみ有効です。固有のサービス パラメータを持つサービスの場合、CSV ファイルを使用して値を指定できます。

手順

ステップ 1 [P.3-3](#) の「BAT 電話機テンプレートの検索」の手順に従って、IP サービスを追加する電話機テンプレートを検索します。

- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[新規 SURL を追加] をクリックします。
- ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、利用可能な Cisco Unified IP Phone サービスを登録できます。
- ステップ 3** [サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウンリスト ボックスで、すべての電話機に登録するサービスを選択します。[サービスの説明 (Service Description)] ボックスに、選択したサービスの詳細が表示されます。
- ステップ 4** [次へ] をクリックします。
- ステップ 5** 必要に応じて、[サービス名 (Service Name)] フィールドでサービスの名前を変更します。
- ステップ 6** [保存] をクリックして、これらの電話サービスを電話機テンプレートに関連付けます。
- ステップ 7** 他のサービスを追加するには、[ステップ 3](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返します。
- ステップ 8** すべてのサービスをテンプレートに追加するには、[更新] をクリックします。
- ステップ 9** ポップアップ ウィンドウを閉じます。
- ステップ 10** 引き続き [P.3-7](#) の「[BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新](#)」に進むことで、短縮ダイヤルをテンプレートに追加することができます。

その他の情報

詳細については、[P.3-51](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新

BAT テンプレートで短縮ダイヤルを追加することも更新することもできます。

電話機ボタン テンプレートで短縮ダイヤル ボタンが設定されている場合は、電話機および Cisco VGC Phone に短縮ダイヤルを指定できます。

手順

- ステップ 1** [P.3-3](#) の「[BAT 電話機テンプレートの検索](#)」の手順に従って、短縮ダイヤルを追加する電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で [新規 SD を追加] をクリックするか、同じウィンドウの右上隅にある [関連リンク] ドロップダウンリスト ボックスで [短縮ダイヤルの追加 / 更新] を選択します。
- ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco Unified IP Phone および拡張モジュールに対して、短縮ダイヤル ボタンを指定できます。この BAT テンプレートで使用している電話機ボタン テンプレートによって、使用可能な短縮ダイヤル ボタンの数が決まります。

- ステップ 3** [短縮ダイヤル設定 (Speed Dial Settings)] 領域で、アクセス コードや長距離コードを含めて、電話番号を [番号 (Number)] フィールドに入力します。
- ステップ 4** [ラベル (Label)] フィールドに、短縮ダイヤル番号に対応するラベルを入力します。
- ステップ 5** [ASCII ラベル (ASCII Label)] フィールドに、短縮ダイヤル番号の ASCII ラベルを入力します。
- ステップ 6** [固定短縮ダイヤル設定 (Abbreviated Dial Settings)] 領域で、[ステップ 3](#) および [ステップ 5](#) を繰り返すと、該当する IP Phone モデルに省略短縮ダイヤルを設定することができます。
- ステップ 7** [保存] をクリックします。

BAT によってテンプレートに短縮ダイヤル設定値が挿入され、ポップアップ ウィンドウが閉じます。

その他の項目

詳細については、[P.3-51](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT テンプレートにおけるビジー ランプ フィールドの追加または更新

BAT テンプレートでビジー ランプ フィールド短縮ダイヤルの追加と更新ができます。

電話機ボタン テンプレートで短縮ダイヤル ボタンが設定されている場合は、電話機および Cisco VGC Phone にビジー ランプ フィールド短縮ダイヤルを指定できます。

手順

- ステップ 1** [P.3-3](#) の「[BAT 電話機テンプレートの検索](#)」の手順に従って、短縮ダイヤルを追加する電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で [新規 BLF SD を追加] をクリックするか、同じウィンドウの右上隅にある [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスで [ビジーランプフィールド短縮ダイヤルの追加 / 更新] を選択します。

ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco Unified IP Phone および拡張モジュールに対して、ビジー ランプ フィールド短縮ダイヤル (BLF SD) ボタンを指定できます。この BAT テンプレートで使用している電話機ボタン テンプレートによって、使用可能な BLF SD ボタンの数が決まります。
- ステップ 3** [短縮ダイヤル設定 (Speed Dial Settings)] 領域で、アクセス コードや長距離コードを含めて、電話番号を [着信先 (Destination)] フィールドに入力します。
- ステップ 4** ドロップダウン リスト ボックスから電話番号を選択します。[検索] をクリックすると、電話番号を検索できます。
- ステップ 5** [ラベル (Label)] フィールドに、BLF SD 番号に対応するラベルを入力します。
- ステップ 6** [ASCII ラベル (ASCII Label)] フィールドに、BLF SD 番号に対応する ASCII ラベルを入力します。

ステップ7 [保存] をクリックします。

BAT によってテンプレートに BLF SD 設定値が挿入され、ポップアップ ウィンドウが閉じます。

その他の項目

詳細については、[P.3-51](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT 電話機テンプレートの変更

既存の電話機またはユーザ デバイス プロファイル テンプレートを表示または修正する手順は、次のとおりです。回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加または更新できます。

手順

ステップ1 [P.3-3](#) の「[BAT 電話機テンプレートの検索](#)」の手順に従って、変更する電話機テンプレートを検索します。

ステップ2 [電話機テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、テンプレートの設定値を追加、変更、または削除します。詳細については、[P.3-11](#) の「[電話機テンプレートのフィールドの説明](#)」を参照してください。

ステップ3 設定値を変更した後、[保存] をクリックしてテンプレートを更新します。

ステップ4 他のアトリビュートを更新する場合は、次の手順のいずれかを選択します。

- [BAT テンプレートにおける回線の追加または更新 \(P.3-5\)](#)
- [BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新 \(P.3-6\)](#)
- [BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新 \(P.3-7\)](#)

その他の情報

詳細については、[P.3-51](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT 電話機テンプレートのコピー

変更するフィールドの数が少ない場合は、電話機テンプレートのプロパティを新しい電話機テンプレートにコピーできます。



(注) 作成する新しいテンプレートは、元のテンプレートとデバイス タイプが同じでなければなりません (たとえば、Cisco IP Phone Model 7960)。

既存の BAT 電話機テンプレートをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.3-3 の「BAT 電話機テンプレートの検索」の手順に従って、コピーする電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、コピーするテンプレートを確認し、[コピー] をクリックします。



(注) [電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウから、電話機テンプレートをコピーすることもできます。コピーする電話機テンプレートに対応した、[コピー (Copy)] カラムまたは [回線を含めたコピー] カラムのアイコンをクリックします。

テンプレートが複製され、コピーが作成されます。このコピーには、元のテンプレートで指定した値がすべて複写されます。[電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウで [回線を含めたコピー] カラムをクリックした場合、テンプレートに関連付けられているすべての回線も一緒にコピーされます。

- ステップ 3** [テンプレート名 (Template Name)] フィールドに、テンプレートの名前を入力します。名前には、50 文字以内の英数字を指定することができます。例：Sales_7960。
- ステップ 4** 必要に応じて、新しいテンプレートのフィールドを更新します。詳細については、P.3-11 の「電話機テンプレートのフィールドの説明」を参照してください。
- ステップ 5** [保存] をクリックします。BAT に追加されるテンプレートが、左側の [電話テンプレート] カラムに表示されます。
- ステップ 6** 電話機テンプレートに回線を追加する手順については、P.3-5 の「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」を参照してください。各種のサービスと短縮ダイヤル ボタンを定義することもできます。

その他の項目

詳細については、P.3-51 の「関連項目」を参照してください。

テンプレートの削除

BAT テンプレートが不要になった場合は、削除することができます。テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.3-3 の「BAT 電話機テンプレートの検索」の手順に従って、削除する電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、削除するテンプレートを確認し、[削除] をクリックします。



(注) [電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] で電話機テンプレートを削除することもできます。削除するテンプレートの横のチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] をクリックします。

削除操作を確認するように求めるメッセージが表示されます。

ステップ 3 [OK] をクリックして、テンプレートを削除します。[電話テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウの電話機テンプレート リストのリストから、テンプレート名が消去されます。

**注意**

特定の電話機テンプレートを使用するジョブを送信し、その電話機テンプレートを削除すると、ジョブも削除されます。

その他の項目

詳細については、[P.3-51](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明

[表 3-1](#) では、すべての IP テレフォニー デバイスの BAT 電話機テンプレートを追加する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。一部のデバイス タイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

関連する手順については、[P.3-51](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
[デバイス名 (Device Name)]	デバイス名を入力します。
[説明 (Description)]	作成する電話機テンプレートの説明を入力します。
[デバイスプール (Device Pool)]	このグループの電話機またはポートのデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット（たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco Unified Communications Manager グループ、自動登録用のコーリング サーチ スペースなど）を定義します。
[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]	ドロップダウン リスト ボックスで、利用可能な共通の電話機プロファイルのリストから、共通の電話機プロファイルを選択します。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>このグループの電話機またはポートのコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	<p>このグループの電話機またはポートのメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。</p> <p>MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL に定義されている優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。</p>
[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]	<p>このグループの電話機またはポートのユーザ保留オーディオソースを選択します。</p> <p>ユーザ保留オーディオ ソースは、ユーザがコールを保留にしたときに再生される音楽のオーディオ ソースを特定します。</p>
[ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source)]	<p>このグループの IP Phone またはポートのネットワーク保留オーディオソースを選択します。</p> <p>ネットワーク保留オーディオ ソースは、システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したときまたはコール パークに置いたとき) に再生される音楽のオーディオソースを特定します。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>このグループの IP Phone またはポートの適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを [なし] に設定すると、ロケーション機能がこの Cisco IP Phone の消費する帯域幅を管理しないことを示します。</p>
[ユーザロケール (User Locale)]	<p>このグループの IP Phone に関連付ける国 / 地域と言語の組み合わせを選択します。</p> <p>この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ネットワークロケール (Network Locale)]	このグループの電話機に関連付けるネットワーク ロケールを選択します。 ネットワーク ロケールは、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときを使用するトーンと断続周期を提供します。
[オーナーのユーザ ID (Owner User ID)]	プライマリ電話機ユーザのユーザ ID を入力します。
[電話ロード名 (Phone Load Name)]	該当する場合は、カスタム電話機ロードを入力します。  (注) このフィールドに入力される値は、選択されたモデルのデフォルト値を上書きします。 Cisco IP Phone ソフトウェアおよび設定の詳細については、電話機モデルに対応する『Cisco IP Phone アドミニストレーションガイド for Cisco Unified Communications Manager 5.0』を参照してください。
[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]	ドロップダウンリスト ボックスから、デバイスに設定するモードを選択します。 [Use System Default] : 電話機はエンタープライズ パラメータの Device Security Mode に指定された値を使用します。 [Non-secure] : 電話機にセキュリティ機能はありません。TCP 接続で Cisco Unified Communications Manager が利用できます。 [Authenticated] : Cisco Unified Communications Manager は電話機の整合性と認証を提供します。NULL/SHA を使用する TLS 接続を開始します。 [Encrypted] : Cisco Unified Communications Manager は電話機の整合性、認証、および暗号化を提供します。AES128/SHA を使用する TLS 接続を開始します。 このフィールドが表示されるのは、電話機モデルが認証または暗号化をサポートしている場合だけです。
[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)]	[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] ドロップダウン リスト ボックスを使用して、割り込み機能のための組み込み会議ブリッジを有効または無効にします ([On]、[Off]、または [Default]) を選択します。 設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[プライバシー (Privacy)]	<p>プライバシーを必要とする電話機ごとに、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウン リスト ボックスで [オン] を選択します。</p> <p>設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
[ビデオコールを音声として再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受けるビデオ エンドポイントだけに適用されます。この電話機がビデオとして接続していないコールを受けると、コールはオーディオ コールとして接続を試みます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。つまり、ビデオ コールがビデオ コールとして接続できない場合に、このデバイスがビデオ コールをオーディオ コールとして即座に再試行し、その後で再ルーティングのためにコール制御にコールを送るよう指定されています。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続できないビデオ コールでは、オーディオ コールとしての接続確立が再試行されません。この場合、コールはコール制御を行えず、コール制御は Automatic Alternate Routing (AAR) やルート リスト、ハント リストによってコールをルーティングします。</p>
[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、コール表示の制限をコールごとに設定できます。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager では、内線コールのために受信したすべての表示制限が無視されます。</p>
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、CTI で制御可能なすべてのデバイスを CTI から制御できます。</p> <p>このチェックボックスは、CTI で制御可能なデバイスタイプおよびデバイスプロトコルに基づいて、オンまたはオフにできます。たとえば、SIP プロトコルを使用する 7960 は CTI ではサポートされていないので、チェックボックスをオフにする必要があります。SCCP プロトコルを使用する 7960 は CTI でサポートされているので、チェックボックスをオンにする必要があります。</p>
[プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)]	
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、信号パケット キャプチャに設定するモードを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし]: モードを指定しない場合は [なし] を選択します。 • [Real-Time Mode]: リアルタイム 信号パケット キャプチャに使用します。 • [バッチ処理モード]: 信号パケット キャプチャのバッチ処理に使用します。
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>パケット キャプチャの時間を分単位で入力します。最大 300 分の継続時間を入力できます。デフォルトの継続時間は 60 分です。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>プレゼンス機能で使用する、SIP 電話機または SCCP 電話機は、BLF 短縮ダイヤル ボタンとして電話機に設定されたプレゼンス エンティティに関するステータス (たとえば、電話番号) を要求するので、ウォッチャーとして機能します。</p> <p>電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを [プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンス グループを選択します。</p> <p> ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)]	<p>必要に応じて、適切な SIP ダイアル ルールを選択します。SIP ダイアル ルールは、ユーザがキーを押したりタイマーを待ったりしなくてもコールが処理されるための、Cisco SIP IP Phone モデル 7905、7912、7940、および 7960 のローカル ダイアルプランを提供します。</p> <p>ダイヤルルールを SIP IP Phone に適用しない場合は、[SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)] フィールドを [None] のままにします。この場合、コールを処理するには、ユーザが [ダイヤル] ソフトキーを使用するか、タイマーが期限切れになるのを待つ必要があります。</p>
[デバイスセキュリティプロファイル (Device Security Profile)]	<p>SCCP または SIP 電話機の場合は、デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。</p> <p>すべての電話で、セキュリティ プロファイルを適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、非セキュアなプロファイルを選択します。</p>
[MTP 優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、SIP コールにメディア ターミネーション ポイントが必要な場合に使用するコーデックを選択します。</p>
コーリングサーチスペースの再ルーティング (Rerouting Calling Search Space)	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、再ルーティングに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>参照側の再ルーティング用コーリング サーチ スペースが、参照側からターゲットへのルート検索に使用されます。再ルーティング用コーリング サーチ スペースが原因で参照が失敗した場合、参照プリミティブは、要求を拒否して「405 Method Not Allowed」というメッセージを返します。</p> <p>リダイレクション (3xx) プリミティブおよび転送機能も、再ルーティング用コーリング サーチ スペースを使用して、リダイレクトからまたは転送からターゲットへのルートを検索します。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[アウトオブダイアログ REFER コーリングサーチスペース (Out-Of-Dialog Refer Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスから、アウトオブダイアログ参照コーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、アウトオブダイアログ (OOD) 参照許可コーリングサーチスペース (CSS) を使用して SIP アウトオブダイアログ参照を許可します。管理者は、参照側の OOD CSS を設定することによって、アウトオブダイアログの使用を制限します。参照プリミティブでは、OOD 参照要求が拒否され、「403 Forbidden」というメッセージが返されます。</p>
[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能で使用すると、電話機からの登録要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法は、SUBSCRIBE コーリングサーチスペースによって決まります。ドロップダウンリスト ボックスから、この目的に使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[SIP プロファイル (SIP Profile)]	<p>デフォルトの SIP プロファイルまたはすでに作成した特定のプロファイルを選択します。SIP プロファイルは、デフォルトのテレフォニー イベント ペイロードのタイプ、登録タイマーおよびキープアライブ タイマー、メディア ポート、Iris、および動的 DNS サーバアドレスなど、電話機の特定の SIP 情報を提供します。</p>
[ダイジェストユーザ (Digest User)]	<p>ダイジェスト認証 (SIP セキュリティ) で使用します。電話機に関連付けるエンドユーザを選択します。</p> <p>選択したダイジェスト信用証明書が、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで指定されたとおりに設定されていることを確認します。</p> <p>電話機の設定を保存し電話機をリセットした後、ユーザのダイジェスト信用証明書が、電話機の設定ファイルに追加されます。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	<p>このデバイスの不在ポートを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>
[DTMF 受信が必要 (Require DTMF Reception)]	<p>SIP 電話機および SCCP 電話機の場合、このチェックボックスをオンにすると、この電話機で DTMF を受信する必要があります。</p>
[RFC2833 が無効 (RFC2833 Disabled)]	<p>SCCP 電話機で、このチェックボックスをオンにすると、RFC2833 サポートのサポートが無効になります。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[電話ボタンテンプレートの情報 (Phone Button Template Information)] と [拡張モジュールの情報 (Expansion Module Information)]	
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	このグループ内の全電話機のボタン テンプレートを選択します。ボタン テンプレートによって、ボタンの識別 (回線、短縮ダイヤル) と電話機上のボタンの位置が決まります。ボタン テンプレートには、拡張モジュールが含まれます。
[ソフトキーテンプレート情報 (Softkey Template Information)]	
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	このグループ内のすべての電話機に使用されるソフトキー テンプレートを選択します。
[拡張モジュール情報 (Expansion Module Information)]	
[モジュール 1(Module 1)]	電話機に取り付けられている場合は拡張モジュールを選択します。
[モジュール 2(Module 2)]	電話機に取り付けられている場合は拡張モジュールを選択します。
[ファームウェアロード情報 (Firmware Load Information)]	
[モジュール 1 ロード名 (Module 1 Load Name)]	最初の Cisco Unified IP Phone Expansion Module のファームウェア ロードを入力します (該当する場合)。デフォルト ロードを使用する場合は、このフィールドを空白のままにします。
[モジュール 2 ロード名 (Module 2 Load Name)]	2 番目の Cisco Unified IP Phone Expansion Module のファームウェア ロードを入力します (該当する場合)。デフォルト ロードを使用する場合は、このフィールドを空白のままにします。
[CAPF 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] (これらのパラメータは、認証または暗号化のサポート機能のあるデバイスの場合にだけ表示されます)	
[証明書の操作 (Certificate Operation)]	ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションの中から実行する証明書のオペレーションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [保留中の操作なし]: このデバイスには処理中の証明書のオペレーション リストが存在しません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドは無効になります。 • [インストール/アップグレード]: 証明書のオペレーションをインストールまたは更新します。 • [削除]: 証明書のオペレーションを削除します。 • [トラブルシューティング]: 証明書のオペレーションのトラブルシューティングを行います。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[認証モード (Authentication Mode)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスから、証明書 の操作中に電話機を CAPF で認証するために使用する認証モードを、次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Null スtring] : ユーザの介入なしに、ローカルで有効な証明書をインストール/アップグレード、削除、またはトラブルシューティングできます。 < [なし] > <p> (注) このオプションは、認証モードの値を指定するプロンプトを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [認証String] : ユーザが電話機に CAPF 認証文字列を入力した場合にのみ、ローカルで有効な証明書をインストール/アップグレード、削除、またはトラブルシューティングできます。 [既存の証明書 (LSC の優先)] : 製造元でインストールされた証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) が電話機に存在する場合に、ローカルで有効な証明書をインストール/アップグレード、削除、またはトラブルシューティングできます。 <p> (注) このオプションを選択する前に、証明書が電話機に存在することを確認してください。このオプションを選択して、証明書が電話機に存在しない場合、操作は失敗します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [既存の証明書 (MIC の優先)] : LSC または MIC が電話機に存在する場合、ローカルで有効な証明書をインストール/アップグレード、削除、またはトラブルシューティングできます。 <p> (注) このオプションを選択する前に、証明書が電話機に存在することを確認してください。このオプションを選択して、証明書が電話機に存在しない場合、操作は失敗します。</p>
[認証文字列 (Authentication String)]	<p>セキュリティプロファイルの[認証モード(Authentication Mode)]ドロップダウンリスト ボックスで [認証String] オプションを選択した場合、この設定が適用されます。4 ~ 10 桁の数値を手動で入力します。ローカルで有効な証明書をインストール、アップグレード、またはトラブルシューティングするには、電話機のユーザまたは管理者が認証文字列を電話機に入力する必要があります。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[キーサイズ (Key Size、ビット)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスで、証明書のキー サイズを次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1024 : デフォルトのオプションです。 < [なし] > <p> (注) このオプションは、証明書のキー サイズの値を指定するプロンプトを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2048 512 <p> (注) デフォルト設定値よりも大きなキー サイズを選択すると、電話機がキーの生成に必要なエントロピーを生成する時間が長くなります。キー生成が低い優先順位で設定されていると、このアクションの実行中に電話機が機能しません。電話機モデルによっては、キー生成が完了するのに 30 分以上かかる場合があります。</p>
[操作の完了 (Operation Completes By)]	このフィールドでは、[証明書の操作 (Certificate Operation)] の [インストール / アップグレード]、[削除]、および [トラブルシューティング] オプションがサポートされており、操作を完了する必要がある日付と時刻を指定します。
[証明書の操作ステータス (Certificate Operation Status)]	このフィールドには、認証操作の経過が表示されます。たとえば、< 操作のタイプ > Pending、Failed、または Successful のように表示されます。操作のタイプには、[証明書の操作 (Certificate Operation)] の [インストール / アップグレード]、[削除]、および [トラブルシューティング] オプションがあります。このフィールドに表示される情報は変更できません。
[外部データ位置情報 (External Data Locations Information、デフォルトを使用する場合はブランク)]	
[情報 (Information)]	Cisco IP Phone の情報ボタンのヘルプ テキスト URL を入力します。
[ディレクトリ (Directory)]	Cisco IP Phone のディレクトリ サーバの URL を入力します。
[メッセージ (Messages)]	Cisco IP Phone のボイス メッセージのアクセス パイロット番号を入力します。
[サービス (Services)]	Cisco IP Phone のサービス メニューの URL を入力します。
[認証サーバ (Authentication Server)]	<p>電話機の Web サーバに対する要求を認証するときに、電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合は、認証を必要とする Cisco Unified IP Phone モデルの拡張機能は動作しません。デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション ウィンドウにアクセスします。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[プロキシサーバ(Proxy Server)]	<p>電話機の HTTP クライアントから非ローカル ホストアドレスにアクセスするために、プロキシ HTTP 要求に使用されるホストおよびポート (たとえば、<code>proxy.cisco.com:80</code>) を入力します。</p> <p>電話機が、サービスの中で URL (たとえば、<code>www.cisco.com</code>) を受信するときに <code>cisco.com</code> ドメインで設定されていない場合、その電話機はプロキシサーバを使用してその URL にアクセスします。<code>cisco.com</code> ドメインで設定されている場合、電話機は、URL と同じドメインにいたので、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。</p> <p>デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p>
[アイドル (Idle)]	<p>[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] フィールドで指定された時間、電話機が使用されなかったときに、Cisco Unified IP Phone LCD スクリーンにアイドル表示として表示される XML サービスの URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD スクリーンにロゴを表示できます。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p>
[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)]	<p>電話機に許容される非動作時間 (秒数) を入力します。非動作のままこの時間が経過すると、電話機は [アイドル (Idle)] フィールドに指定された URL を表示します。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p>
[内線情報 (Extension Information)]	
[エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)]	<p>エクステンション モビリティ機能を使用可能にする場合に、このチェックボックスをオンにします。エクステンション モビリティを使用すると、ユーザは、Cisco IP Phone にログインおよびログアウトすることができます。エクステンション モビリティの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
[ログアウトプロファイル (Log Out Profile)]	<p>エクステンション モビリティのユーザがログアウトするときに電話機がロードするプロファイルを選択します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでログアウト プロファイルを設定する必要があります。</p> <p>[-- 現在のデバイス設定を使用 --] : これを選択すると、自動生成されたデバイス プロファイルが、デフォルト デバイス プロファイルとして作成されます。</p> <p>[-- ユーザデバイスプロファイルを選択 --] : これを選択すると、定義済みのユーザ デバイス プロファイルが割り当てられ、このデバイスのデフォルト デバイス プロファイルになります。</p> <p>選択されたユーザ デバイス プロファイルは、ログインしているユーザがいないとき、デバイスにロードされます。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 情報 (MLPP Information)]	
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウンリスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト]: デバイスは MLPP 表示設定値をデバイス プールから継承します。 • [オフ]: デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信しません。 • [オン]: デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信します。 <p> (注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ] という組み合わせではデバイスを設定しないでください。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンプション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウンリスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト]: デバイスは MLPP プリエンプション設定値をデバイス プールから継承します。 • [無効]: デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理しません。 • [強制]: デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理します。 <p> (注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制] で [MLPP 表示 (MLPP Indication)] が [オフ] という組み合わせではデバイスを設定しないでください。</p>
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)] ("0000FF" など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。空白または 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
[H.323 デバイス情報 (H.323 Device Information)]	
[シグナリングポート (Signaling Port)]	<p>このデバイスが使用する H.225 シグナリング ポートを指定します。</p> <p>デフォルト値は 1720 です。有効な値は 1 ~ 65535 です。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ビデオコールを音声として再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受けるビデオ エンドポイントだけに適用されます。この電話機がビデオとして接続していないコールを受けると、コールはオーディオ コールとして接続を試みます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっており、送信側デバイスが、オーディオ コールとして接続していないビデオ コールを即座に再試行し、その後で再ルーティングのためにコール制御にコールを送るよう指定されています。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続できないビデオ コールはコール制御を行えません。この時点で、コール制御はそのコールをルート リスト内で再ルーティングします。Automatic Alternate Routing (AAR) が設定され使用可能になっている場合、コール制御はルート リスト間のコールも再ルーティングします。</p>
[ファーエンドH.245ターミナル機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set)]	<p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。これは、Cisco Unified Communications Manager がデバイスと機能の交換を開始するように指定していることを意味します。このチェックボックスは、Cisco Unified Communications Manager が、先に遠端の H.245 ターミナル機能セットを受信してから、その H.245 ターミナル機能セットを送信する必要があることを指定します。</p>
[プロトコル固有情報]	
[SRTP を許可]	<p>このチェックボックスをオンにすると、ネットワークで IPSec を設定してエンド ツー エンドのセキュリティを提供する必要があります。そのようにしないと、キーやその他の情報が公開されます。</p>
[MTP 優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、SIP コールにメディア ターミネーション ポイントが必要な場合に使用するコーデックを選択します。</p>
[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]	<p>H.323 がサポートしていない機能 (保留や転送など) の実装に Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) を使用するかどうかを指示する場合に使用します。</p> <p>メディア ターミネーション ポイントを使用して機能を実装する場合は [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオンにします。メディア ターミネーション ポイントを使用して機能を実装しない場合は [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 クライアントと H.323 デバイスに対してだけ、またはメディア ストリームが単一ソースを通じて終了するようにする場合にだけ使用します。</p> <p>このチェックボックスをオンにして MTP を要求し、このデバイスがビデオ コールのエンドポイントになると、コールはオーディオ専用として機能します。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[H.323 情報]	
[発信者 ID パターン (Outgoing Caller ID Pattern)]	電話機への着信コールに対して、発信者 ID に使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。
[発呼側の選択 (Calling Party Selection)]	次のいずれかのオプションを選択して、送信される電話番号を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Originator] : コールの発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [First Redirect Number] : リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number] : コールを最後にリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • [First Redirect Number (External)] : リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number (External)] : コールを最後にリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。
[発呼側のプレゼンテーション (Calling Party Presentation)]	セントラル オフィスが発信者 ID を送信するか、非通知にするかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • セントラル オフィスが発信者 ID を送信する場合は、[Allowed] を選択します。 • セントラル オフィスが発信者 ID を送信しない場合は、[Restricted] を選択します。 • デフォルトでは、発信者 ID をコール ストリーム内で上記のレベルによって [Restricted] にされていない限り、発信者 ID が表示されます。
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	発信側と着信側の名前通知サービスに対して、SETUP メッセージおよび CONNECT メッセージ内の表示情報要素 (IE) を通知するには、このチェックボックスをオンにします。
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>コールの転送時に最初のリダイレクト番号とコールのリダイレクト理由を知らせるために、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SETUP メッセージに番号 IE のリダイレクトを含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>発信 SETUP メッセージに最初のリダイレクト番号とリダイレクト理由を含めない場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイス メッセージ統合だけの場合は、番号 IE のリダイレクトを使用します。設定したボイス メッセージ システムが番号 IE のリダイレクトをサポートしている場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[番号 IE 配信インバウンドのリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>番号 IE のリダイレクトをサポートするボイス メッセージ システムを統合する場合は、番号 IE のリダイレクトを使用します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager への着信 SETUP メッセージで番号 IE のリダイレクトを受け入れる場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager に着信した SETUP メッセージから番号 IE のリダイレクトを除外する場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>
[ゲートキーパー情報 (Gatekeeper Information)]	
[ゲートキーパー名 (Gatekeeper Name)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ゲートキーパー制御の H.323 デバイス用のゲートキーパーを選択します。</p> <p> (注) デバイスを選択しない場合、[E.164]、[テクノロジープレフィックス(Technology Prefix)]、および[ゾーン(Zone)]の各フィールドは無効になります。</p> <p> (注) デバイスに複数の電話番号が設定されている場合、そのデバイスをゲートキーパー制御の電話機に変更することはできません。</p>
[E.164]	<p>ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを選択します。</p> <p> (注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御のデバイスとして設定されていることを確認します。</p> <p> (注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>
[テクノロジープレフィックス (Technology Prefix)]	<p>テクノロジープレフィックスを入力して、gw-type-prefix コマンドの設定時に各 Cisco Unified Communications Manager システムの IP アドレスを入力する必要がないようにします。たとえば、ゲートキーパーで次の gw-type-prefix コマンドを使用できる場合、このフィールドには次のように 1#* と入力することができます。</p> <p>gw-type-prefix 1#* default-technology</p> <p> (注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ゾーン (Zone)]	<p>ゲートキーパーで、Cisco Unified Communications Manager が登録を行う特定のゾーンを入力します。ゾーンには、このゾーンと別のゾーンの間のコールに使用可能な合計帯域幅を指定します。</p> <p> (注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の電話機用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、文字、数字、スペース、ダッシュ、ドット、およびアンダースコアだけです。</p>
[Gatekeeper Controlled H.323 Client]	H.323 クライアント ゲートキーパーを制御対象のゲートキーパーとして設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[サイレント (Do Not Disturb)]	
[サイレント (Do Not Disturb)]	Do Not Disturb (DND; サイレント) を有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。
[DND オプション]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの DND オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし] • [呼出音オフ]
[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし] • [無効] • [フラッシュのみ] • [ビープ音のみ]
[セキュアシェル情報 (Secure Shell Information)]	
[セキュアシェルユーザ (Secure Shell User)]	<p>セキュリティ保護されたシェルのユーザのユーザ ID を入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) は、トラブルシューティングのためにセキュリティ保護されたシェルを使用します。詳細については、TAC にお問い合わせください。</p>
[セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)]	<p>セキュリティで保護されたシェルのユーザのパスワードを入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。詳細については、TAC にお問い合わせください。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
デバイスの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド	<p>プロダクト固有の設定では、デバイスの製造元によってモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある「?」情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示してください。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するデバイスの資料を参照するか、製造元にお問い合わせください。</p>



(注) BAT 電話機テンプレートの設定を続行するには、P.3-4 の「新しい BAT 電話機テンプレートの作成」に進みます。

BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明

表 3-2 では、BAT 電話機テンプレート、ゲートウェイテンプレート、または UDP テンプレートに回線を追加する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。一部のデバイスタイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

関連する手順については、P.3-51 の「関連項目」を参照してください。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[電話番号情報 (Directory Number Information)]	
[回線テンプレート名]	回線テンプレートの一意の名前を入力します。
[ルートパーティション (Route Partition)]	<p>電話番号が属するルートパーティションを選択します。</p> <p> (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。</p>
[説明 (Description)]	回線テンプレートの説明を入力します。
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	共有電話番号に対するアラート中に表示される名前を表します。非共有電話番号の場合、アラート時には [表示 (Display)] フィールドに入力された名前が使用されます。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)]	このフィールドには、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)] フィールドの内容が表示されます。
[アクティブ]	このチェックボックスを [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで表示するには、[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウから未割り当ての電話番号にアクセスします。このチェックボックスをオンにすると、この DN へのコールを転送できます (転送が設定されている場合)。チェックボックスがオフの場合、DN は Cisco Unified Communications Manager で無視されます。
[電話番号の設定 (Directory Number Settings)]	
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを選択します。この機能は、この電話機に対してボイスメッセージサーバが設定されていない場合に役立ちます。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを選択します。  (注) このフィールドに変更を加えると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドのリストに表示されるピックアップグループ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	プレゼンス機能で使用すると、電話番号がプレゼンス エンティティとして機能します。つまり、ウォッチャーが電話番号のステータスを要求すると、電話番号のステータスがリアルタイムにデバイスに表示されます。 電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、ウォッチャーのプレゼンス グループが、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを、[プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに示されるとおりに表示するよう許可されていることを確認します。 プレゼンス機能については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。 AAR グループを [<None>] に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]	ユーザが [保留] ボタンを押してコールを保留にするときに再生される保留音オーディオソースを選択します。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source)]	システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送する間や電話会議またはコールパークを開始する間) に再生される保留音オーディオソースを選択します。
[コール転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings)]	
[不在転送 (Forward All)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>コールをボイスメールプロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[不在転送 (Forward All)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [不在転送 (Forward All)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[不在転送 (Forward All)] の [着信先別 (Destination)]	<p>すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送 (Forward All)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送の二次コーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All)]	<p>ドロップダウンリストボックスからセカンダリコーリングサーチスペース (CSS) を選択します。</p> <p>コール転送は回線ごとの機能なので、デバイスのコーリングサーチスペースが不明な場合は、回線のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。回線のコーリングサーチスペースが制限的またはルーティング不能な場合、転送の試行が失敗します。</p> <p>不在転送の二次コーリングサーチスペースを追加すると、転送のためのソリューションとなります。不在転送の一次コーリングサーチスペースと、不在転送の二次コーリングサーチスペースは、不在転送を処理するときに連結されます (一次 CFA CSS + 二次 CFA CSS)。Cisco Unified Communications Manager はこの組み合わせを使用して、CFA 宛先を検証し、コールを転送します。</p>
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>内部番号からのコールをボイスメールプロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>回線が使用中のときに内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>外部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>回線が使用中のときに外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (Forward Busy External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機が応答しない場合に、内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>コールをボイスメール プロファイルで選択した外部番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機が応答しない場合に、外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に、内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>外部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、無応答時転送の [着信先別 (Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [着信先別 (Destination)]	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に、外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [ボイスメール (Voice Mail)]	<p>[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] フィールドは、CTI ルート ポイントおよび CTI ポート のみに適用されます。この行の設定は、CTI ルート ポイントまたは CTI ポート が失敗した場合に、この CTI ルート ポイントまたは CTI ポート への外線コールの転送をどのように扱うかを指定します。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager では、[着信先別 (Destination)] ボックスおよび [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定が無視されます。内線コールでこのチェックボックスをオンにすると、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンになります。外線コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [着信先別 (Destination)]	この設定は、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった内線コールが転送される電話番号を指定します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。 内線コールの宛先の値を入力すると、外線コールの [着信先別 (Destination)] フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の宛先に転送する場合は、外線コールの [着信先別 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] の [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。 内線コールの CSS を選択すると、外線コールの CSS 設定にこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに転送する場合は、外線コールの CSS に別の設定値を選択する必要があります。
[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)]	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ時間 (秒数) を入力します。この時間内に応答がないと、無応答時の転送着信先にコールを転送します。
[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]	コール ピックアップ グループ名を選択してコール ピックアップグループを指定します。コール ピックアップグループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに応答することができます。
[MLPP 代替パーティの設定 (MLPP Alternate Party Settings)]	
[転送先 (Target、着信先)]	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もそのコール転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。 値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。
[MLPPコーリングサーチスペース (MLPP Calling Search Space)]	ドロップダウンリスト ボックスから、代替パーティターゲット (宛先) 番号に関連付けるコーリングサーチスペースを選択します。
[MLPP無応答時の呼び出し時間 (MLPP No Answer Ring Duration、秒)]	優先コールに対してこの電話番号とそのコール転送先が応答するのを待つ時間 (4 ~ 30 秒) を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。 Cisco Unified Communications Manager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[デバイスの回線 (Line on Device)]	
[表示 (Display、内線発信者 ID)]	<p>このフィールドは、ライン アピアランスに電話番号を表示しない場合だけ使用します。回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。</p> <p>推奨される入力値としては、上司の名前、部門名、あるいは複数の電話番号を受け持つ秘書またはアシスタントが複数の電話番号を識別できる別の適切な情報が挙げられます。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p>
[回線のテキストラベル (Line Text Label)]	<p>回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p> <p> (注) デフォルトの言語は英語です。</p>
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に送信される電話番号 (またはマスク) を入力します。</p> <p>最大 24 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。</p>
[メッセージ受信ランプポリシー (Message Waiting Lamp Policy)]	<p>このフィールドを使用してハンドセット ランプ照明ポリシーを設定します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Policy] (電話番号は「メッセージ受信ランプポリシー」設定を参照します) • [Light and Prompt] • [Prompt Only] • [Light Only] • [None] <p>設定は、右にあるチェックボックス ([共有デバイス設定の更新]) をオンにして [選択対象を反映] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスだけに適用されます (右側のチェックボックスが表示されるのは、他のデバイスがこの電話番号を共有している場合だけです)。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアイドルのとき)]	<p>着信コールを受信し、デバイスに他のアクティブなコールがない場合の、ライン アピランスに対する呼び出し音設定を選択します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Default] • [Disable] • [Flash Only] • [Ring Once] • [Ring]
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアクティブのとき)]	<p>この電話機に異なる回線で別のアクティブ コールがあった場合に使用される呼び出し音設定を選択します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Default] • [Disable] • [Flash Only] • [Ring Once] • [Ring] • [Beep Only]
[複数コール/コール待機設定 (Multiple Call/Call Waiting Settings)]	
[コール最大数 (Maximum Number of Calls)]	<p>クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 184 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。</p> <p>このフィールドは [ビジートリガー (Busy Trigger)] フィールドと併せて使用します。</p>
[ビジートリガー (Busy Trigger)]	<p>この設定は、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および [話中転送 (Call Forward Busy)] と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] が 50 に設定され、[ビジートリガー (Busy Trigger)] が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます (さらに [話中転送 (Call Forward Busy)] が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイント用の [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
[転送呼の情報表示 (Forwarded Call Information Display on Device)]	
[発信者名 (Caller Name)]	転送されたコールの受信時に、表示に発信者名を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。
[発信者番号 (Caller Number)]	転送されたコールの受信時に、表示に発信者の番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[転送元番号 (Redirected Number)]	転送されたコールの受信時に、表示にリダイレクトされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[ダイヤル番号 (Dialed Number)]	転送されたコールの受信時に、表示にダイヤルされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトの設定では、このチェックボックスはオンになっています。



(注) 電話機と UDP の手順を完了するには、P.3-5 の「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」に進みます。ゲートウェイに関するアップデートを完了するには、第 45 章「ゲートウェイテンプレート」を参照してください。



(注) [割り当て済みのデバイス] リスト ボックスでデバイス名を選択し、[デバイスの関連付け (Associated Devices)] または [ラインアピランスの編集] をクリックして、デバイスまたは回線を編集することができます。

BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成

新しい電話機または IP テレフォニー デバイスをシステムに追加する場合、BAT と共に使用するよう設計された Microsoft Excel スプレッドシートを使用できます。このスプレッドシートは、選択されたデバイスのオプションを自動的に調整するマクロを備えています。スプレッドシート内でファイル形式を定義することができるので、BAT スプレッドシートはデータ ファイル形式を使用して CSV データ ファイルのフィールドを表示します。

新しい電話機と他の IP テレフォニー デバイスを追加するために BAT スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、P.1-9 の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」を参照してください。

手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを見つけ、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする] ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** 電話機オプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [Phones] タブをクリックします。

ステップ 4 次のデバイス タイプのいずれかのオプション ボタンを選択します。

- [Phones]
- [CTI Port]
- [H.323 Client]
- [VGC Phone]
- [VGC Virtual Phone]

スプレッドシートには、選択されたデバイスで使用可能なオプションが表示されます。たとえば、[Phones] を選択すると、回線数と短縮ダイヤル数のフィールドが表示されます。



(注) 選択するデバイス タイプによって BAT スプレッドシート内のデータの検索条件が決まります。

ステップ 5 電話機ごとに定義できるデバイス フィールドおよび回線フィールドを選択するには、[Create File Format] をクリックします。[Field Selection] ポップアップ ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 デバイス フィールドを選択するには、[Device Fields] ボックスでデバイス フィールド名をクリックし、次に矢印をクリックしてそのフィールドを [Selected Device Fields] ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには、[MAC Address/Device Name] および [Description] を含める必要があります。したがって、これらのフィールドは常に選択された状態になっています。



ヒント リスト内の特定範囲のフィールドを複数同時に選択するには、Shift キーを押しながらフィールド名をクリックします。複数のフィールドを任意に選択するには、Ctrl キーを押しながらフィールド名をクリックします。

ステップ 7 [Line Fields] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [Selected Line Fields] ボックスに移動します。



ヒント [Selected Line Fields] ボックスと [Selected Device Fields] ボックスの項目の順序は変更できます。項目を選択し、上向き矢印を使用してその項目をリストの前方に移動させるか、または下向き矢印を使用してその項目をリストの後方に移動させます。

ステップ 8 [Create] をクリックして、CSV データ ファイル形式を修正します。既存の CSV 形式を上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 9 [OK] をクリックします。選択したフィールド用の新しいカラムが、指定した順序で BAT スプレッドシートに表示されます。

ステップ 10 [Maximum Number of Phone Lines] ボックスが表示されるまで、右にスクロールします。ここで指定する回線数は、BAT テンプレートで設定した回線数を超えることはできません。



(注) CSV データ ファイルを挿入するとき、電話機の回線数は BAT 電話機テンプレートの回線数を超えることはできません。この数を超えると、エラーが発生します。

ステップ 11 電話機の [短縮ダイヤルの最大数 (Maximum Number of Speed Dials)] ボックスで短縮ダイヤル ボタンの数を入力する必要があります。ボタン数を入力すると、各短縮ダイヤル番号用のカラムが表示されます。



(注) データ レコードを挿入するときは、BAT テンプレートで設定した短縮ダイヤル数を超えないようにしてください。超えた場合は、CSV データ ファイルと BAT 電話機テンプレートを挿入するときにエラーが発生します。

ステップ 12 スプレッドシートで回線ごとに個々の電話機のデータを入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプションフィールドに値を入力します。各カラムの見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを示しています。表 3-3 では、BAT スプレッドシートのすべての電話機フィールドを説明しています。

ステップ 13 電話機ごとに MAC アドレスを入力しなかった場合は、[Create Dummy MAC Address] チェックボックスをオンにします。

ダミー MAC アドレス オプションを選択した場合、後で、正しい MAC アドレスを使用して電話機を更新できます。この更新を行うには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにこの情報を手作業で入力するか、Unified CM Auto-Register Phone Tool ツールを使用します。Unified CM Auto-Register Phone Tool の詳細については、P.61-2 の「Cisco Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool の概要」を参照してください。



(注) CTI ポートを追加する場合、ダミー MAC アドレス オプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、CTI ポートごとに固有のデバイス名が指定されます。H.323 Client、VGC Phone、および VGC Virtual Phone には、ダミー MAC アドレスを使用しないでください。

ステップ 14 [Export to BAT Format] をクリックして BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送します。

このファイルは、指定したローカル ワークステーション上で選択したフォルダに、次のファイル名で保存されます。

```
<tabname>-<timestamp>.txt
```

ここで、<tabname> は、作成した入力ファイルのタイプ (たとえば、phones) を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。



(注) いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。空白行の後に入力されているデータは BAT 形式に変換されません。



(注) カンマが入った CSV ファイル名 (abcd,e.txt) は、Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードできません。

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにあるデータベースサーバにアップロードして、BAT が CSV データ ファイルにアクセスできるようにする必要があります。ファイルのアップロードとダウンロードの詳細については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#)を参照してください。



(注) エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT 内の[電話の挿入 (Insert Phones)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示] へのリンクをクリックしてください。

その他の項目

詳細については、[P.3-51](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT スプレッドシートの電話機のフィールド説明

[表 3-3](#) では、CSV データ ファイルにデバイスと回線の詳細を追加する場合に使用可能な電話機フィールドについて説明します。関連する手順については、[P.3-51](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明

フィールド	説明
Device Fields	
MAC Address/Device Name	電話機、VGC Virtual Phone、および VGC Phone の MAC アドレスを入力します。CTI ポートまたは H.323 クライアントの固有の ID (デバイス名) を入力します。[Dummy MAC Address] チェックボックスをオンにすると、固有のデバイス ID を自動的に生成できます。
Description	電話機またはデバイスを特定する説明 (たとえば、「Conference Room A」や「John Smith」) を入力します。
Media Resource Group List	このグループの電話機またはポートのメディア リソース グループ リスト (MRGL) を入力します。 MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL に定義されている優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。
User Hold Audio Source	このグループの IP Phone または CTI ポートが使用するユーザ保留オーディオソースを入力します。 ユーザ保留オーディオ ソースは、ユーザがコールを保留にしたときに再生される音楽のオーディオソースを特定します。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Network Hold Audio Source	<p>このグループの IP Phone または CTI ポートが利用するネットワーク 保留オーディオ ソースを入力します。</p> <p>ネットワーク 保留オーディオ ソースは、システムがコールを保留に するとき (たとえば、ユーザがコールを転送したときまたはコール パークに置いたとき) に再生される音楽のオーディオ ソースを特定 します。</p>
User Locale	<p>このグループの IP Phone に関連付ける国 / 地域と言語の組み合わせを入 力します。</p> <p>この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれ をこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で 表示するかが決まります。</p>
Network Locale	<p>このグループの電話機に関連付けるネットワーク ロケールを入力し ます。</p> <p>ネットワーク ロケールは、シスコのゲートウェイと電話機が、特定 地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用す るトーンと断続周期を提供します。</p>
Softkey Template	このグループ内の電話機すべてに使用されるソフトキー テンプレート を入力します。
Common Phone Profile	ドロップダウン リスト ボックスで、利用可能な共通の電話機プロ ファイルのリストから、共通の電話機プロファイルを選択します。
Device Presence Group	<p>プレゼンス機能で使用すると、SIP 電話機または SCCP 電話機は、BLF 短縮ダイヤル ボタンとして電話機に設定されたプレゼンス エンティ ティに関するステータス (たとえば、電話番号) を要求するので、 ウォッチャーとして機能します。</p> <p>電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するに は、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを [プ レゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウに 示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンス グループを 選択します。</p> <p> ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参 照してください。</p>
Phone Load Name	<p>該当する場合は、カスタム電話機ロードを入力します。</p> <p> (注) このフィールドに入力される値は、選択されたモデルのデ フォルト値を上書きします。</p> <p>値は CTI ポートには適用されません。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Security Profile	<p>デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを入力します。選択したプロファイルが電話機がサポートしていない場合は、Cisco Unified Communications Manager で設定が適用できません。</p> <p>すべての電話で、セキュリティ プロファイルを適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、非セキュアなプロファイルを選択します。</p>
Device Subscribe CSS	<p>プレゼンス機能で使用了した場合、電話機からの登録要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法は、SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースによって決まります。ドロップダウン リスト ボックスから、この目的に使用するコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p> ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
E.164	<p>ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを選択します。</p> <p> (注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御のデバイスとして設定されていることを確認します。</p> <p> (注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字(0～9)と特殊文字の#および*だけです。</p>
User ID	この電話機ユーザのユーザ ID を入力します。
Media Resource Group List	このリストは、優先順位が付けられたメディア リソース グループのグルーピングを指定します。アプリケーションは、[Media Resource Group List] で定義する優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (たとえば保留音サーバ) を選択します。
AAR CSS	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを入力します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
MLPP Domain	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0～FFFFFF の値である必要があります。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
MLPP Indication	<p>(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default] : デバイスは MLPP 表示設定値をデバイス プールから継承します。 • [Off] : デバイスは MLPP 優先コールの表示の対応も処理もしません。 • [On] : デバイスは MLPP 優先コールの表示に対応して処理します。
MLPP Preemption	<p>(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンプション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default] : デバイスは MLPP プリエンプション設定値をデバイス プールから継承します。 • [Disabled] : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理しません。 • [Forceful] : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理します。
Signal Packet Capture Mode	<p>信号パケット キャプチャに設定するモードを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [None] : モードを指定しない場合は [None] を選択します。 • [Real-Time Mode] : リアルタイム 信号パケット キャプチャに使用します。 • [Batch Processing Mode] : 信号パケット キャプチャのバッチ処理に使用します。
Packet Capture Duration	<p>パケット キャプチャの時間を分単位で入力します。最大 300 分の継続時間を入力できます。</p>
Authentication String	<p>4 ~ 10 桁の数値を入力します。ローカルで有効な証明書をインストール、アップグレード、またはトラブルシューティングするには、電話機のユーザまたは管理者が認証文字列を電話機に入力する必要があります。</p>
Ignore Presentation Indicator	<p>Yes または No を入力して、コール表示の制限をコールごとに設定します。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager では、内線コールのために受信したすべての表示制限が無視されます。</p>
SIP Profile	<p>デフォルトの SIP プロファイルまたはすでに作成した特定のプロファイルを入力します。SIP プロファイルは、デフォルトのテレフォニー イベント ペイロードのタイプ、登録タイマーおよびキープアライブタイマー、メディア ポート、Iris、および動的 DNS サーバアドレスなど、電話機の特定の SIP 情報を提供します。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Digest User	<p>ダイジェスト認証 (SIP セキュリティ) で使用します。電話機に関連付けるエンド ユーザを選択します。</p> <p>選択したダイジェスト信用証明書が、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで指定されたとおりに設定されていることを確認します。</p> <p>電話機の設定を保存し電話機をリセットした後、ユーザのダイジェスト信用証明書が、電話機の設定ファイルに追加されます。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
Log Out Profile	<p>エクステンション モビリティのユーザがログアウトするときに電話機がロードするプロファイルを入力します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでログアウト プロファイルを設定する必要があります。</p> <p>[-- 現在のデバイス設定を使用 --] : これを選択すると、自動生成されたデバイス プロファイルが、デフォルト デバイス プロファイルとして作成されます。</p> <p>[-- ユーザデバイスプロファイルを選択 --] : これを選択すると、定義済みのユーザ デバイス プロファイルが割り当てられ、このデバイスのデフォルト デバイス プロファイルになります。</p> <p>選択されたユーザ デバイス プロファイルは、ログインしているユーザがいないとき、デバイスにロードされます。</p>
SIPCodec_MTPPreferred OrigCodec	<p>SIP コールにメディア ターミネーション ポイントが必要な場合に使用するコーデックを入力します。</p>
Dial Rules	<p>必要に応じて、適切な SIP ダイアルルールを入力します。SIP ダイアルルールは、ユーザがキーを押したりタイマーを待たなくてもコールが処理されるための、Cisco SIP IP Phone モデル 7905、7912、7940、および 7960 のローカル ダイアルプランを提供します。</p> <p>ダイアルルールを SIP IP Phone に適用しない場合は、[SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)] フィールドを [<None>] のままにします。この場合、コールを処理するには、ユーザが [ダイアル] ソフトキーを使用するか、タイマーが期限切れになるのを待つ必要があります。</p>
CSS Reroute	<p>再ルーティングに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。</p> <p>参照側の再ルーティング用コーリング サーチ スペースが、参照側からターゲットへのルート検索に使用されます。再ルーティング用コーリング サーチ スペースが原因で参照が失敗した場合、参照プリミティブは、要求を拒否して「405 Method Not Allowed」というメッセージを返します。</p> <p>リダイレクション (3xx) プリミティブおよび転送機能も、再ルーティング用コーリング サーチ スペースを使用して、リダイレクトからまたは転送からターゲットへのルートを検索します。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
CSS Refer	<p>アウトオブダイアログ参照コーリング サーチ スペースを入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、アウトオブダイアログ (OOD) 参照許可コーリング サーチ スペース (CSS) を使用して SIP アウトオブダイアログ参照を許可します。管理者は、参照側の OOD CSS を設定することによって、アウトオブダイアログの使用を制限します。参照プリミティブでは、OOD 参照要求が拒否され、「403 Forbidden」というメッセージが返されます。</p>
Certificate Operation	<p>次のオプションから実行する認証操作を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Pending Operation] : このデバイスには処理中の証明書のオペレーション リストが存在しません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドは無効になります。 • [Install/Upgrade] : 証明書のオペレーションをインストールまたは更新します。 • [Delete] : 証明書のオペレーションを削除します。 • [Troubleshoot] : 証明書のオペレーションのトラブルシューティングを行います。
Certification Operation Completion Time	<p>このフィールドでは、[Certificate Operation] の Install/Upgrade、Delete、および Troubleshoot オプションがサポートされており、操作を完了する必要がある日付と時刻を指定します。</p>
Secure Shell User	<p>セキュリティ保護されたシェルのユーザのユーザ ID を入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) は、トラブルシューティングのためにセキュリティ保護されたシェルを使用します。詳細については、TAC にお問い合わせください。</p>
Secure Shell Password	<p>セキュリティで保護されたシェルのユーザのパスワードを入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。詳細については、TAC にお問い合わせください。</p>
Device Pool	<p>適切なデバイス プールを入力します。</p> <p>デバイス プールは、このデバイスのプロパティの集合 (たとえば、Communications Manager グループ、日付/時刻グループ、地域、およびデバイスの自動登録用のコーリング サーチ スペース) を指定します。</p>
Built in Bridge	<p>Off、On、または Default を入力して、割り込み機能のための組み込み会議ブリッジを有効または無効にします。</p> <p>設定情報の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
CSS	適切なコーリングサーチスペースを入力します。コーリングサーチスペースは、この電話番号からコールが行われる番号を検索するパーティションの集合から構成されています。選択した値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。コーリングサーチスペースに関する設定情報については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。
Location	この電話機に対して、適切な場所を選択します。ロケーションを Hub_None に設定すると、ロケーション機能がこの電話機の消費する帯域幅を管理しないことを示します。
Module 1	適切な拡張モジュールまたは None を入力します。
Module 1 Load Name	適切な拡張モジュールのカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 ここで入力する値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードに一致することを確認します。
Module 2	適切な拡張モジュールまたは None を入力します。
Module 2 Load Name	2 番目の拡張モジュールのカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 ここで入力する値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードに一致することを確認します。
Phone Template	このタイプのバルク トランザクション用に作成した電話機テンプレートをを入力します。
Authentication Server	電話機の Web サーバに対する要求を認証するときに、電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合は、認証を必要とする Cisco Unified IP Phone モデルの拡張機能は動作しません。デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。 デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco Unified IP Phone ユーザ オプション ウィンドウにアクセスします。
Proxy Server	電話機の HTTP クライアントから非ローカル ホスト アドレスにアクセスするために、プロキシ HTTP 要求に使用されるホストおよびポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。 電話機が、サービスの中で URL (たとえば、www.cisco.com) を受信するときに cisco.com ドメインで設定されていない場合、その電話機はプロキシサーバを使用してその URL にアクセスします。cisco.com ドメインで設定されている場合、電話機は、URL と同じドメインにいますので、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。
Idle	[Idle Timer] フィールドで指定された時間、電話機が使用されなかったときに、Cisco Unified IP Phone LCD スクリーンにアイドル表示として表示される XML サービスの URL を入力します。 たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD スクリーンにロゴを表示できます。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Idle Timer	電話機に許容される非動作時間 (秒数) を入力します。非動作のままこの時間が経過すると、電話機は [Idle] フィールドに指定された URL を表示します。
Owner User ID	プライマリ電話機ユーザのユーザ ID を入力します。
Line Fields (オプション)	
Directory Number	電話機の電話番号を、24 桁以下の数字と特殊文字で入力します。
Route Partition	電話番号が属するルートパーティションを入力します。  (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。
Display	コールの着信側の電話機ディスプレイに表示するテキストを入力します (たとえば、John Smith などのユーザ名や Conference Room 1 などの電話機の設置場所など)。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。 このフィールドをブランクにしておくと、[Directory Number] フィールドに入力された値が使用されます。  (注) デフォルトの言語は英語です。
Line Text Label	回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザ ロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。  (注) デフォルトの言語は英語です。
Voice Mail Profile	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを入力します。この機能は、この電話機に対してボイスメッセージサーバが設定されていない場合に役立ちます。
Line Calling Search Space	この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを入力します。  (注) このフィールドに変更を加えると、[Call Pickup Group] フィールドのリストに表示されるピックアップグループ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを入力します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。</p> <p>AAR グループを [None] に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
Line User Hold Audio Source	ユーザが保留ボタンを押してコールを保留にするときに再生される保留音オーディオ ソースを入力します。
Line Network Hold Audio Source	システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したときまたは電話会議やコールを開始したとき) に再生される保留音オーディオ ソースを入力します。
Forward All CSS	<p>コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Secondary CSS for Forward All	<p>ドロップダウン リスト ボックスからセカンダリ コーリングサーチスペース (CSS) を入力します。</p> <p>コール転送は回線ごとの機能なので、デバイスのコーリングサーチスペースが不明な場合は、回線のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。回線のコーリングサーチスペースが制限的またはルーティング不能な場合、転送の試行が失敗します。</p> <p>不在転送の二次コーリングサーチスペースを追加すると、転送のためのソリューションとなります。不在転送の一次コーリングサーチスペースと、不在転送の二次コーリングサーチスペースは、不在転送を処理するときに連結されます (一次 CFA CSS + 二次 CFA CSS)。Cisco Unified Communications Manager はこの組み合わせを使用して、CFA 宛先を検証し、コールを転送します。</p>
Forward All Destination	<p>すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy External CSS	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward Busy Internal CSS	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy External Destination	<p>回線が使用中のときに外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy Internal Destination	<p>回線が使用中のときに内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer External CSS	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Internal CSS	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer External Destination	<p>電話機が応答しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward No Answer Internal Destination	<p>電話機が応答しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage External CSS	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Internal CSS	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage External Destination	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Internal Destination	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Calling Search Space Forward on Failure External/Internal	<p>(CTI ポートのみ) 内線コールまたは外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward on Failure Destination External/Internal	(CTI ポートのみ) 電話機または CTI アプリケーションに障害が起きたときに、内部番号または外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。
Forward on CTI Failure Destination	この設定は、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった内線コールが転送される電話番号を指定します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。 内線コールの宛先の値を入力すると、外線コールの [Destination] フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の宛先に転送する場合は、外線コールの [Destination] フィールドに別の値を入力する必要があります。
Forward on CTI Failure CSS	この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。 内線コールの CSS を選択すると、外線コールの CSS 設定にこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリング サーチ スペースに転送する場合は、外線コールの CSS に別の設定値を選択する必要があります。
Call Pickup Group	コール ピックアップ グループ名を選択してコール ピックアップ グループを指定します。コール ピックアップ グループでは、該当のピックアップ グループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに応答することができます。
External Phone Number Mask	この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に送信される電話番号 (またはマスク) を入力します。 最大 24 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。
No Answer Ring Duration (CFNA)	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ時間 (秒数) を入力します。この時間内に応答がないと、無応答時の転送着信先にコールを転送します。
Target Destination (MLPP)	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もそのコール転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。 値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。
MLPP CSS	代替パーティ ターゲット (宛先) 番号に関連付けるコーリング サーチ スペースを入力します。
No Answer Ring Duration (MLPP)	優先コールに対してこの電話番号とそのコール転送先が応答するのを待つ時間 (4 ~ 30 秒) を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。 Cisco Unified Communications Manager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Maximum Number of Calls	<p>クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 200 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。</p> <p>CTI ルートポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。このフィールドは [Busy Trigger] フィールドと併せて使用します。</p>
Busy Trigger	<p>この設定は、[Maximum Number of Calls] および [Call Forward Busy] と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。[Maximum Number of Calls] が 50 に設定され、[Busy Trigger] が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます (さらに [Call Forward Busy] が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルートポイント用の [Maximum Number of Calls] と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>
Alerting Name	共有電話番号に対するアラート中に表示される名前を表します。非共有電話番号の場合、アラート時には [Display] フィールドに入力された名前が使用されます。
Route Filter	<p>[Route Filter Name] フィールドに名前を入力します。名前は、最大 50 文字の英数字と、空白、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) の各文字を自由に組み合わせることができます。各フィルタ名がルートプランで一意であることを確認します。</p> <p> (注) ルートフィルタには、短くてわかりやすい名前を使用します。CompanynameLocationCalltype という形式を使用すれば、通常、十分に詳細でありながら、ルートフィルタをすばやく容易に識別する短い名前が作成できます。たとえば、CiscoDallasMetro という名前は、着信無料のローカル間アクセスであり、シスコのダラスオフィスからのトランスポート領域 (LATA) コールのルートフィルタを示します。</p>
Dial Plan	たとえば、北米番号計画などのダイヤルプランを入力します。
Line User Hold Audio Source	ユーザが電話を保留にしたときの保留音 (MOH) のために使用するオーディオソースを入力します。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Line Network Hold Audio Source	ネットワークが電話を保留にしたときの保留音 (MOH) のために使用するオーディオソースを入力します。
E.164	ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを入力します。  (注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御のデバイスとして設定されていることを確認します。  (注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。



(注) 手順を完了するには、P.3-35 の「BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成」に進みます。

関連項目

- 電話機の追加 (P.3-2)
- BAT 電話機テンプレートの使用方法 (P.3-3)
- 新しい BAT 電話機テンプレートの作成 (P.3-4)
- BAT テンプレートにおける回線の追加または更新 (P.3-5)
- BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新 (P.3-6)
- BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新 (P.3-7)
- BAT 電話機テンプレートの変更 (P.3-9)
- BAT 電話機テンプレートのコピー (P.3-9)
- テンプレートの削除 (P.3-10)
- BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明 (P.3-11)
- BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成 (P.3-35)
- BAT スプレッドシートの電話機のフィールド説明 (P.3-38)

